

みつくら

令和 3年 7月15日 第342号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

多くの目で認知症を見守る訓練を実施

去る6月23日に花巻市長寿福祉課主催の「認知症見守り声かけ訓練」が大瀬川振興センターで行われた。この事業は市内各地域を回っており、当日は主催者側から長寿福祉課長や包括支援センターから6名、認知症支援相談員や花巻警察署員が参加。当大瀬川地区からは、民生・児童委員とボランティア7名の他に大瀬川活性化会議から会長と副会長が参加し総勢25名で行われた。

最初に、花巻警察署生活安全課長の大野志織さんから「花巻市の行方不明者の現状と通報する時のポイント」について講義を受けた。お話しによると、昨年190人位保護されたうち約4割位が認知症の方で、複数回保護されるケースも有るといふ。続いて花巻市認知症キャラバン・メイトの斉藤浩さんから「認知症の病状と具体的な対応方法について」の講義を受け、いかにプライドを傷つけないで対応して保護するかのアドバイスを受けた。最後に地域包括支援センターの4名による寸劇『どこにいくの、おばあちゃん』が演じられた。いよいよ見守り声かけ訓練となり、3チームに分れて1番目のチームは講義の会場で実際に110番通報をし、保護した人の特徴や場所などを通報する訓練をした。その後2・3チームはグラウンドに出て東側と西側に離れ、徘徊高齢者役の人に声かけをして安全な所に保護の後、110番通報をする訓練をした。実際に体験してみると徘徊者との会話が噛み合わない為にかかなり難しく、特に一人の時の対応では近くにいる人の応援を頼む事も必要だと助言があった。警察署員からは「居なくなったら早目に連絡が有れば早期に発見できる。また、どこかおかしいと感じる人を見かけたら遠慮せず気軽に110番通報してほしい。」とあった。

この他にも「GPS機器導入補助」や「徘徊高齢者等SOSネットワーク」等の支援があるので長寿福祉課の包括支援係に相談してほしいとあり今回の訓練を終了した。

人事 (敬称略)

花巻市農業委員 板垣淑子 (8月1日から任期3年)

自生花菖蒲園で野点の会

葛丸の農村環境を守る会主催の野点の会は、7月3日に27名が参加して大瀬川自生花菖蒲園で開かれた。昨年の野点の会は、花菖蒲が咲いている場所に会場を設定したが、今回は花菖蒲一帯が一望出来るようにと南側の高台に場所を変更した。

天気予報を見ながら、雨降りの合間を狙って2日前に7月3日と決めたもの。曇り空ではあったが、折しも満開の花菖蒲群が眼下に繰り広げられる光景もまた美しいものであった。茶人は裏千家師範の高橋宗綾(深田家)さん、お手伝いは板垣福子さんと高橋厚子さんの3人からお茶のおもてなしを戴いた。

主催者の板垣幸夫会長は「当会では、大瀬川に自生する花菖蒲を守るために、8年前から芽生える雑木の刈り払いや、大きな茅株などの草刈を行っています。そのためかは分かりませんが、年々花の数も多くなってきました。私達は、単に草刈などだけではなく、こうして皆さん方と一緒に愛でることによって広く啓発活動の一環となればと願っています」と挨拶された。続いて、来賓の熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長から「こうして大瀬川の自然を守って活動している事に敬意を表します。活性化会議でもコロナの影響であらゆる活動も自粛せざるを得ないですが、この機会に触れ合いの場といて戴ければと思います」と祝辞を述べられた。

お茶会では、コロナ対策をした人数分の茶碗を準備して、あじさい模様の生菓子を食べながらのお茶の味は格別であった。

過去最高の資源回収量だった8区

第8区自治公民館主催の今年度1回目の資源回収は、7月9日の朝行われ記憶に残る内では、過去最高の資源回収量となり4トン車に山盛り状態となった。これは、毎年行われている8区子供会の資源回収がコロナウイルス感染症対策で中止になったのが要因の一つと思われる。

取材に応じた菅原洋二館長は「皆さんから多くの協力を頂いたのには感謝しますが、常識に考えても再生にならない汚れた物が含まれていて、自治公民館でも困っています」と嘆いていた。どんな物が含まれていたのかとお聞きしたところ、①ペットの餌の缶詰は、中を洗わず、さらに表に貼ってある紙も剥がさないまま出されたこと。②回収したダンボールの中に、機械油が付着したり、下敷きで油がこぼれた段ボールが含まれていたこと。③10年以上も前の古い瓶が含まれていて、ガラスの劣化のために再生資源にならないこと。④同じく回収した瓶の中に、油類を入れたり、中味を洗わない瓶なども含まれていたこと等であった。

菅原館長は「回収は資源を再生するためです。回収量に比例して市から補助金を頂いていますが、資源ではないものも中に紛れて、知らずに回収した業者も困っています。決して不要品など、廃棄物の回収ではないのですから・・・」と話して下さった。

話の後に「あまり苦情ばかり多く書かないでね。殆どの方は真面目に協力しているのだから」と再度感謝を口にした。

久しぶりに「紙芝居」を楽しむ

9区たんぼぼの会(熊谷幸子会長)では、6月16日に9区自治公民館で「紙芝居」を開催した。この日はコロナワクチン接種日と重なったためか参加者が少なかったが、菅原千恵子さんの情感溢れる語りで「紙芝居」5話の一話一話に引き込まれ久しぶりに会った参加者は楽しい一時を過ごした。

また、会では7月21日(水)10時から認知症・老化予防の食事に関する「いきいき講座」を予定している。

土木要望の側溝交換工事が決まる

今年度の花巻市土木事業で、7区八千穂神社西側の高速道沿いの市道側溝を蓋付きにする事が決定され、冬までには完了の見込みとなっている。この場所は日当たりも悪く、特に冬季期間は側溝に脱輪する車が多く何年も前から花巻市へ土木要望していた中の一件。また、この工事決定に先駆け同場所交差点に地域要望されていたカーブミラーが大瀬川活性化会議地域づくり委員会の予算から設置された。

今年も葛丸川に稚魚放流

6月26日葛丸川淡水魚愛護組合(菅原昇組長)では、葛丸の農村環境を守る会との協賛によるイワナの稚魚約800匹を大瀬川子供会成会の幼児を含めた子供達13人と保護者の協力で山祇神社付近の葛丸川に放流した。毎年6月の最終日曜日の早朝に当組合主催のニジマス釣り大会を実施していたが、コロナ禍のため昨年は中止となった。今年はまだ延期の方向で検討している。また、組合員による放流近くの草刈り作業は今年も行っている。

訃報

上野々家の板垣キヌさんは、6月6日に95歳で亡くなりました。板垣さんは旧家である茶畑家のお生まれで、同じく旧家の上野々家に嫁がれました。大瀬川には現在190戸ありますが、現存する中で上野々家は古い順では、享保2年(1717)からお住まいで18番目、茶畑家は天明8年(1788)からで30番目に古い歴史を刻まれた旧家。板垣さんご主人は、名杜氏として名を馳せ、また町勢功労者でもありました板垣馬太郎さんと、冬期間は勿論、夏場も家を空ける事が多かった事から、旧家を守って懸命に働かれた方でもありました。同じ班の方からは「板垣さんで思い出すのは、あの串団子の味です。しとね方が上手で、あの歯触りは何とも言えない美味しさでした」と話して下さいました。旧大瀬川公民館には、誰でもご馳走になれる漬け物を常備していましたが、その料理も板垣イネさんと共に担われたリーダーの一人でした。板垣さんは、町の保健指導員など、地域でも活躍されましたし、また、晩年まで生涯学習にいそしまれました。「町の生涯学習レインボー賞を戴いたのも板垣さんでしたよ」と近所の方から教えて頂きました。天寿を全うされました板垣さんに謹んでご冥福を申し上げます。